

参考資料

策定・推進検討会での振り返りと課題検討

第3期計画の振り返り及び第4期計画策定のため、令和元年9月から11月に開催した、策定・推進検討会でこれまでの活動の振り返りや課題等について意見を伺い、地区別計画策定に生かしていただくとともに、各地区に共通する課題などは整理したうえで、区計画検討のための基礎資料としました。



- ①人口構成比の急激な変化による高齢化が顕著。
- ②一人暮らしの方が多くなっている。
- ③在宅生活を送っている人達は色々な困りごと（買い物など）があるが、そこに介護サービスが届かない。
- ④横のつながりを拡げていかないと、認知症の方を守ってあげる事はできない。
- ⑤子育てしやすい環境にして、子育て世代にもっと泉区に来てもらいたい。
- ⑥いつまでも必要とされていると感じていただける場面をどう作っていくか。
- ⑦元気な高齢者にどのように地域活動や担い手として参加してもらえるか。
- ⑧「生きがいづくり」が地域にどのような形で貢献できるか考えていく必要がある。
- ⑨災害時に障害のある方や高齢者が安全に避難できる体制作りが必要である。



- ①地域ケアプラザで相談できる事実がまず認識されておらず、地域ケアプラザの認知が足りない。
- ②困っている人がどこにいるのかということと、その人たちに対して相談ができるということを伝えていく責任がある。
- ③いろいろな活動や支援があるにもかかわらずそれが届いていない。同時に、困った人がそもそも誰に相談したらいいのかが分かっていない。
- ④どこに障害のある人がいるか分からない。
- ⑤相談されたことを支援につなげていく仕組みがわかりにくい。
- ⑥どこにもつながっていない軽度の障害児・者など、日常生活ではそんなに困っていない方については、障害サービスがつながる機会が少ない部分がある。
- ⑦相談をされやすい仕組みというのを地域の中にもう少し増やす。
- ⑧働きながら子育てをしている親と関われるのは、産育休の間の短い時期しかない。
- ⑨障害のある人たちについて隣近所でサポートしていけるような体制が少ない。



- ①参加者が固定化している。
- ②障害のある人たちや孤立化している人たちなど、高齢で元気のある人たちがもっと積極的に参画するきっかけというのをつくっていかなくてはいけない。
- ③たくさんの啓発が必要。活動を知らないということによって担い手にもならない。地域のことをもっと知る機会が必要。
- ④産育休が明けたら仕事復帰し、つながりがなくなってしまう。
- ⑤担い手がとにかく不足し、固定化している。
- ⑥新しい担い手を増やしていく。
- ⑦担い手の育成。
- ⑧活動をもっと連携させていかなくてはいけない。
- ⑨活動が増えて参加が進む、参加が進んで活動が増えてつながっていくという一つの流れをつくっていかなくてはいけない。
- ⑩18歳以上の障害者について、日中活動の後の時間を過ごす場所が今はない。

第4期泉区地域福祉保健計画策定・推進検討会 委員名簿

(敬称略)

地区・組織名	委員氏名
中川地区	石田 五十六
和泉中央地区	笠井 尚子
上飯田団地地区	佐野 瞳
泉区医師会	池島 秀明
泉区歯科医師会	橋本 和喜
泉区民生委員児童委員協議会	石井 マサ子
泉区老人福祉施設施設長研究会	倉本 恵造
泉地域活動ホーム かがやき	金子 恭己
泉区地域子育て支援拠点 すきっぷ	泉 直子
泉区主任児童委員連絡会	益子 眞弓 (～令和2年3月)
	細谷 幸子 (令和2年4月～)
泉区保健活動推進委員会	武関 いと子
泉区ボランティアネットワーク	中嶋 光代
田園調布学園大学人間福祉学部	村井 祐一
泉区福祉保健センター長	秋元 秀臣
泉区福祉保健センター担当部長	竹田 良雄



泉わくわくプラン推進キャラクター
いずちゃん

泉区マスコットキャラクター
いっずん



横浜市泉区役所福祉保健センター福祉保健課

社会福祉法人 横浜市泉区社会福祉協議会

〒245-0024

〒245-0023

横浜市泉区和泉中央北5-1-1

横浜市泉区和泉中央南5-4-13

TEL 045-800-2433 FAX 045-800-2516

TEL 045-802-2150 FAX 045-804-6042

EMAIL iz-fukuho@city.yokohama.jp

EMAIL normalize@shakyo-iy.or.jp